

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. 27_1/1_1	タイトル 地域課題の解決に向けた動きをつくる取り組み	自治体名 沖縄県那覇市
アイデア名(注2) (公開)	新都心公園避難村(防災フェス)		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	わくわく新都心@okinawa		
チーム属性(公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	5名		
代表者情報	氏名(公開)	塩真 孝彰	
メンバー情報		畑瀬 裕子 大城 真喜子 上原 巧也 Sammy	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

銘苅小学校区・天久小学校区は、学校や自治会、地域の活動団体や住民相互の連携が弱いことが、聞き取り調査から分かった。そのために、那覇市新都心地域で暮らす人・働く人が災害時に、助け合いやスムーズな避難ができるか不安がある。

<解決アイデアの内容>

参加したくなるイベントを通して、防災に関心を持ってもらう企画を提案します。

- (1) 「防災キャンプ」・・・新都心公園でキャンプしながら防災を学ぼう！
- (2) 「防災川柳コンテスト」・・・クスッと笑える防災川柳
- (3) 「炊き出しコンテスト」・・・人気 No.1 の炊き出しはどれ？ →非常食レシピ開発につなげる
- (4) 「避難所ファッションショー」・・・おしゃれで機能的な一着！
- (5) 「防災あるある劇」・・・笑いあり涙あり
- (6) 「ペット防災」・・・ペットも一緒に同行避難
- (7) 「桃太郎プロジェクト」・・・新都心地域の店舗の協力により、きびだんご（クーポン）を提供してもらい、防災イベントへの参加を募る

☆アンケート調査・分析→次回につなげるために丁寧に細かく調査する

銘苅小学校区・天久小学校区の地域連携を促すために、楽しく、ワクワク、活動開始！



「防災キャンプ」



「炊き出し」

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

まず、対象地区としては、チームメンバーが、普段、日常生活や地域活動をしている

那覇市新都心地域（銘苅、天久）を選定。

【基礎データ 1：地区の年齢別人口割合】

	15 歳未満	15～64 歳	65 歳以上
銘苅&天久	21.0%	66.3%	12.8%
那覇市	15.1%	62.1%	22.8%

那覇市平均に比べ、0 歳～64 歳（子ども世代・働き世代）の割合が高い。65 歳以上の割合に至っては半分以下である。

資料：平成 31 年 3 月時点（統計那覇 174 号より参照）

【基礎データ 2：地区の自治会加入率割合】

	全世帯数※概算	加入世帯数	加入率（%）
銘苅 & 天久 （全 8 自治会）	10464	1297	12.4
市営・県営住宅自治会を 除くと	9898	739	7.5

那覇市全体の自治会加入率は 16.7%

公営住宅の自治会をのぞいた当地区の自治会加入率は、那覇市に比べて、圧倒的に低い。

資料：平成 31 年 3 月時点（統計那覇 174 号より参照）

【基礎データ 3：地域への聞き取り】

天久小 PTCA 会長（知花 剛） 銘苅小 PTCA 会長（羽地 仁）
銘苅市営住宅自治会長（諸喜田 邦夫） 銘苅新都心自治会長（前原 信達）
おもろまち自治会長（樋口 豊） 安岡自治会（中田 喜康）
県営天久高層住宅自治会（大嶺 めりよ） 新都心銘苅市営住宅自治会（上原 幸吉）
天久ピアザ自治会（境 知樹） 銘苅・新都心地域の住民 10 名

・銘苅市営住宅自治会は、子育てを終えた 60-70 代の住民が殆ど。若い世代は、母子もしくは父子家庭が多く、中間層がない。

・銘苅新都心自治会は、「15 周年の歩み」を作成してこれまでの活動をまとめて、広報活動を積極的に行っているが、自治会加入率は伸びていない。

・県営天久高層住宅自治会は、各階に班長を決めて自治会活動に参加するようにアプローチしている。

・おもしろまち自治会は1 - 4丁目と範囲が広いが、自治会加入率は5%台と非常に低く、予算がないので今年は毎年行っていた「おもしろまち自治会秋祭り」も開催を見送った。自治会ができた当初（15年前から数年間）は高層マンションも含めて各戸に加入案内を配っていて、微妙に加入者が増えた時期もあったが、転出者が多いのに加え、新しいマンションがどんどん立ち並び、世帯数が増えて各戸への案内も追いつかず現在は案内は行っていない状況。

・マンションは民間企業が管理組合になっている場合がほとんどで（住民自体が運営していない）、管理組合に自治会加入を求めても聞く耳を持たないところがほとんどなので、どうにかしたい。

・各年代に合わせて興味を引きそうなクラブ（囲碁・ハルサー・釣りなど）企画を行っているが、参加者が集まらないのが現状。

・6年前に転居してきた時、自治会の案内などは何もなかったので存在すら知らなかった。

・新都心公園でイベントを組んだりしているようだが、周知されていない。

・自治会は地域の助け合いのためにあると思っているが、子供が巣立って地域との関わりが薄くなってしまい、入会はしていない。

・自治会が何をしているかわからないので未加入だが、コミュニティの必要性は感じている。

以上の基礎データより、当該地区は、構成人口が若く、自治会加入率が低い。また、地域住民たちの実感としてもつながりが薄いという風を感じている。

⇒当該地区コミュニティの希薄化が現象として現れている。それに伴い、非常時&災害時の地域住民同士の連携・助け合いが実際にできるのかということに懸念がある。誰もが参加しやすい防災イベントを通し、防災に関心を持ってもらうと同時に、波及的に地域コミュニティに対しても関心を持ってもらう。

* 新都心公園は**広域避難場所**及び**指定緊急避難場所**として指定されている。

広域避難場所とは、広域的に地震や火災等の大規模な災害が発生した場合に、一次的に避難する場所。

指定緊急避難場所とは、地震や津波等のあらゆる災害時においても一定の安全を確保できる避難場所。

新都心公園は**防災避難公園**として、

- ① 備蓄倉庫 460 m²
- ② 耐水性貯水タンク 400t (44,000 人の3日分の飲料水)
- ③ 地下雨水貯留槽 2,200 t
- ④ マンホールトイレ 30 基

などを備えている、那覇市の**災害時重要拠点**となる。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

◎実現する主体：

那覇市(防災危機管理課、公園管理課、環境衛生課、まちづくり協働推進課)、那覇新都心地域の居住者及び就労者

◎実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)の大まかな規模とその現実的な調達方法：

ヒト - 那覇新都心地域の住民、学校、自治会、企業など約 5000 人

調達方法 - 学校からのお知らせや自治会・那覇新都心通り会・銘苺小学校区まちづくり協議会からの広報、SNS の活用

モノ - 新都心公園

- (1) 「防災キャンプ」・・・テント、寝袋、炊き出し、ランタン、紙食器
- (2) 「防災川柳コンテスト」・・・用紙・ペン、
- (3) 「炊き出しコンテスト」・・・大鍋、コンロ（熱源）、食材、水、ゴミ袋、
- (4) 「避難所ファッションショー」・・・手作りステージ
- (5) 「防災あるある劇」・・・手作りステージ
- (6) 「ペット防災」・・・テント、ゲージ、ブルーシート、
- (7) 「桃太郎プロジェクト」・・・新都心地域の店舗からきびだんご(クーポン)の提供

調達方法 - 那覇市防災危機管理課や店舗・住民からの提供

カネ - 防災フェス：2 日間でのべ 5000 人規模を想定。1 人 500 円×5000 人 = 250 万円

非常食品開発：100 円×10 万食 = 1000 万円

調達方法 - 様々な助成金制度 + 企業からの協賛金及び、那覇市の防災に係る予算の活用

◎実現にいたる時間軸を含むプロセス：

- ① 2020 年秋に新都心公園での防災キャンプ（2 日間）開催すると同時に、(2)～(7)までの項目を実施する。
- ② 非常食品開発は、レシピ開発(2020 年春)→業者選定(2020 年夏)→試作品完成(2020 秋)

◎実現の制度的制約がある場合の解決策：

- ① 「防災キャンプ」に必要な公園利用申請を公園管理課に提出する。
- ② 「炊き出しコンテスト」に必要な食品衛生責任者講習（保健所）の資格者がチームにいる。



「ペット防災」



備蓄倉庫見学

